頭書
他藩船の頭其外

湖海和歌題林抄上之二月部

春月部

春月　春曉月　春曉月　春月出　春月出　春月出

春月　春月　春月　春月　春月　春月

春月　春月　春月　春月　春月　春月

春月　春月　春月　春月　春月　春月

雉 九丁
芸雑思子 峰の鳥 十丁
山峰の雉 谷中峰の雉
苗代 五月苗代
田家苗代 蓬屋業 十二丁
庵の蓬屋 古畑蓬屋
三月三月十三丁 曲水宴
桃花流水上 庵の桃花
池杜若 沢杜若
菖蒲沼 菖蒲中菖蒲
松上菖蒲 菖蒲為松花
菖蒲 社頭菖蒲

雲雀 十七丁
野雲雀
夕雲雀
山家雲雀
苗代 十二丁
朝蓬屋業
庵蓬屋業
桃花 十四丁
桃花曙
沢杜若
菖蒲沼
菖蒲中菖蒲
夕桃
杜若 十六丁
菖蒲花
菖蒲花は
夕菖蒲
沼下菖蒲
菖蒲庵

山河雉
峰の雉
谷の雉
苗代 十二丁
川苗代
夕蓬屋業
杜の蓬屋業
蓬屋神
桃李の言
杜の宮の
菖蒲沼
夕菖蒲
沼下菖蒲
菖蒲庵

燕 十七丁
燕の来
燕の来は
夕燕
沼下燕
燕の来
燕の来

燕 十七丁
燕の来
燕の来は
夕燕
川下燕
燕の来
燕の来

燕 十七丁
燕の来
燕の来は
夕燕
池下燕
燕の来
燕の来

蛙 十九丁
蛙
蛙の鳴
蛙の鳴
夕蛙
蛙の鳴
蛙の鳴
蛙の鳴

春に小象　春風　春地儀　春親物
春朝　春夕　春秋　春山　春霞
春海　社頃春　山家春　春門　春田
春植物　杉の春雨　春竹添雨　春島　春屋
春獣　春雨　春兎　春雜物　春猟
春述懷　春歌　春神祇　春祝　春旅
毎家の春　家々就春　春風春の一附来

○春月
・あかつきの春月・あけぼの春月・春
つき・春よすがら・春よすがら・春の
うち人の月・春よゆめもうもしと春が
ちり月・春よりうつろふ・春よりうつ
・あかつき春月・春月・春月・春月の
夜・春月山のは・春月・春月・春月
・春よのうち・春よすがら・春の
うけりり・春月ふかく・春よすがら
月の春の・春の神ながら・あかつき
うつし・やまかは春月・春て春月
月の春・春の春月・春てすする
春の春月・春ぐりの春月・春ぐる
・ちぐさよすがら・ちもちぐさの月
・月・春のちぐさのうち・春しく

增補和歌題林抄巻上之二

十二　春月　うつき　たかつき

くるかの月八秋ぞ春月ふるとうくるこれ
ばかりなるくもくるやむしのかもうぐ
ふくもさやうかくぬとふくぐさうつれ
さくもうむ春
月やあくぬくるやむしれ春かくれ
ちりの月春ちりしの春ふ
てりもせくりもそぬくりの春れ
おぼろの月春ちくもの春月

增補　春中月　春陰

○春曙

十七　春曙の部

春曙

春曙

春曙

の志・所かるのこと・月雪のつ
くれ・ゆかのくさ花部

○百首歌奉合ニ　隆信卿

あだなりくさのうつろひ
ゆかのつくさ

花部

世をうらみそめしこころのいろのあだ
なりくさのうつろひ

山家雪曙　雅有

みこしぢや花をうつしひとたて
ゆかのうつろひ

春雨　法花院

おもかるくさのうつろひ
霞ゆかのつくる山のつ

月中雪曙　実陰

たれとしるかなくさの花世の花をうつ
すものうつこれけるかゆかの

雪村雪曙　師兼

のくゆきやみてうめて山のとも
こんこふつく花まつこと

雪曙眺望　法橋家流

月花のあられふしてもあてうけよ
ろやうすものあをはのく山

○遊月

うきくさ　すゑ　遊月　くれがさこと　かがさ日記

あがさ・のどかに暮し日・紅葉林
・秋の月・夜の月・ゆかの花日・ゆ
わろ・なぐさ・ゆかの日記・ゆの
くれ・秋・月・花・とし・
・ゆ・ゆ・ゆ

○柳絮上之二

○柳絮

十六　遊絲

○花絮

十七　春雨

○花絮　法華傳述僧有鬱終自此池移彼池之氣也

○杜子美句三春花遊絲白古離

又　炉畑細々駘遊絲

○田達音句天外遊絲或有無

○菅家御句乱絲野馬草深春野馬とは遊絲也

○柳絮　法華傳述僧有鬱終自此池移彼池之氣也

○杜子美句三春花遊絲白古離

又　炉畑細々駘遊絲

○田達音句天外遊絲或有無

○菅家御句乱絲野馬草深春野馬とは遊絲也

○花絮

○天外遊絲

○天外遊絲

○天外遊絲

いろまさるふくれはるかさそくとなりぬ
てつまとくとうぶんたもろべの事はれろ
ふりてこのめろもそくとく
ろもいふはとなはまてこれを咲
ぬしんとひやりてうし
あつさうとてくれもをこの物りぬ
はのとさくとゆくはるふつくてん
ろもこれこのめもろのもうまとき
かそいろうくやはんものまん
物語　為氏
ゆくもとうもはるすく
たかろくふのくるふさんのそく
夕まも　章義つ流

つくやもふりくれくるふの日を
はつ○ふりかくれものうそとけろ
若このまも　はるもの流
みくやはるかひろふはと
ろもとくとくふふ
雑　を
若まも　若の
ぬくふすくを物くれ
ふりの物くうくるさうを物
林下のまも　八条あさ家宮
くくくれたくれたをかくれても
ずくとまもよあまんくそなり
若女浴枕　野まも
物のうくあれあさ物の系れあさみくり
くくふすくてくるふさうを物の
流まも
清輝系流

十八 春弱

○春弱

月

十九

雁

月

定家

月

霞中海月　為定

夕海月　家雅

暁海月　為家

海月　為定

海月　連歌

海月　拾遺集

海月　文明

海月　紹巴

海月　拾遺集

海月　山家集

海月　雅世

海月　拾遺集

海月　山家集

海月　海山集

海月　家雅

海月　雅世

海月　拾遺集

海月　家雅

海月　家雅

海月　家雅

二十 雜春

○海辺の春

いせの海・いりそ山・うくひす・とび・千鳥・玉藻・とれ・作山・うくひす・ふじの山・たかね山・大よど・ちどり・あし・ふじ・すくも・まのわ山・とま・ようごの海・海山・ゆの子・雪のあけぼの・みるめ・のびる

○雜春

雜春の哥・雜春の詞・うぐひす・山ぶき・すみれ・ゆべの雜春・やまぶきの雜春・やまぶきのこと・ひのこと・ひのこと・ちどり・人のあさふじ・人のあさふじ・人のあさふじ

○九

つきもこころのまつふるさとにたくはり　居毛の雑　京雅

みそとせいろうかうの色のまれつきひよ

しるあしくるるるさしひ野かりり　野雑み

ちんやあををのさしひをりて　文流

かくとよとかりしくらしくの春　雅世

山路の雑

さくらくりくりにすんひくもくしたの

山路くりくりくりくりやあてう　雅之

桜部の雑

○雑よのあ

○ちりはそうあ　むされうあ

うくあそ　とかしあ　うくあ

人のあのやれくうくくてちくへ

あ雑思み　師義

あ面部のさしれみとかしあ

たくまくのの　大系雑　あ人の系

あくうあそ　さくあそ　くくあそ

みくす　くあ

○雑よのあ

一　雑み島　まくのの　くくのの

ちくくもちくあくくく

○荒田もの山

いとが山・ちのがれ社・はるゝ

・ちの社・ゆうか山・みそか山

・ちゝせ山・こゝの社・うゝのひ山

みの川・うゝ山・乃ゝの社・三田

あゝ山・ゝゝの社・佐山・尾山

・さかり山・きう・あゝその社

・ちゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

朝義葉　花宗

雅世

家業　杜若義葉　家宣

師泰

定清　義葉

宗雅

摘義葉

春の春

義澤神

三月　三月　その花

○三月三日

やよひの三日、曲水の宴あり。文人ども、
[illegible]
[illegible]
[illegible]

同菅雅規詩ニ礙石遅来心
竊待牽流過手先遊
○巴ノ字ト云ハ水ノ流れめぐる
形ノ◎コレヲ云ナリ
○桃李不言　史記ニ桃李不言
下自成蹊
○漢武帝他術をこのしたなる人
あまたあつまりて桃つくりたりけ
るを味ひくらべうゑ帝これを
うらんしこのさまをあまねくたづ
ねれハ下界の桃のハなりしを
上界のあのゑへこのゑのゑひを
ふびゑなりとあへる方朔なる人
なりしんべらふびこれをぬすみ
てくらへうるぞをけりとかん
○桃源の事漢の世に武陵の
人あるものうせ侯なるを
よ桃の花ちりく咲こうあはは
ちりぬるをりとりてこの洞
このゑれハ男女二人のこり侯人
なれへ人侯さこのあるをまとしをえば夫婦の人
侯なりとをとへこうをを侯りさこれと桃源の源をこそり桃源記よんこそり

○陽狐上之二

家集
あもとうりんをもとめしのみちのく
をもとめしのもとくさんこそ
をの文用　即基
桃李不言　史記ニ桃源のこと
ふる
さくらの花ものいはぬこそひてかう
いりきんしの花のかくれいうふこ
雅純
桃花流水上
ゆかりそめしりうう桃の花ろう
ゆう素集
うつくしそをくのかうをとをくむ
こうををそをくのかうをとをくむ
素法
拾玉
あつて桃花
桃源のこと
ふるさとしのこれ花のこそや
ひとしれぬかとこをとををこさろうん
改ね
桃花曝錦
乳紙
うすくこれみちこの花花のこれ
をくうくやりうね春風と
○杜若
杜若　いとこあつ　さきん　いつ
ふるさとの　いとのあつ　こやの池
さくべぬまにたちくる花をりこうこそつくる
こりて春ようつきてあるとへぶりしをもとをむ
らさきにくこそふるはしひつまりしたい
ひとそ春しむしり此春しのかこつくる
ひをそ春しむしり此春しのかこつくる
ゑくりこそかこりこそかこりこそかこりこそ
雅純
杜若の宮ゑ
湯補
教玉
ふるこのをとをかこりこのをとをかこりこのをとをかこり

○柳の系

・いとさの糸・うつし・うゑ

・ながら・春風池・すぐるの池

沢柳

いとのうつしさらへのみくさ井て　宗雅

ながらいろあるふうにのこるか　師兼

○藤花

・藤波の花・花の藤なみ・花の藤

波・うつる藤波・うゑる藤波・よん

子藤波・ながく藤波・まの藤波

・白藤波・沖の藤波・春の藤

なみ・移うつる藤波・宮の藤

波・山の藤波・まのうし藤波

の花ふさ・藤うえ・藤うつ・藤

のちぐさ・ひしさの藤・春さく

藤花

たをのうちうち　ふちのうちくさへ

藤のすゑをとりつゝ

ふちなみ　いとのうちなみ

ひくらんだちうりてうんとも

さかくふまとしん

しとも又ひしさの中に海人てもうひ

○藤花

春・春さく門・汀の藤・春さく

波・ちとせ藤・藤のちるひ・藤

ちる・いざゝ藤波・その藤なみ

・藤べの藤・松の藤・藤の初花

・下ぶの藤・藤の末じ・藤の花

波・さゝゆる藤・藤のひしぐ・宮

ちさ・ちるさの藤・藤のとくさ

・ちる孫の藤・藤ぶかハちる藤

ぶちくさ・藤のもち井・まりの社

よりり・藤のくぐ・藤の又・藤の下波

・ぶぐさ藤・藤ぐの藤ちる・藤

なちの藤・海の藤波・ふるの

藤波・藤波のぐ・のの海・藤の花

それ藤ハ女よと・ちる藤の又

さくさ・ゆくの又・そのくぐ

いとのうゑ藤のちるなるかうん　為家

藤むら波　藤むら波

藤ちる　藤ちる

藤むら波　藤むら波

ふちのちるなるかうん　為家

藤ちる　藤ちる

藤ちる　藤ちる

藤ちる　藤ちる

夕顔　定家

雲の色はいとゝ　ゆふぎりに
しをれる花の　ゆふぎりに
ゆふぎりに　ゆふぎりに

雅世

花上顔

みしらぬかこすゑの顔の花のうち
いくしらぬうとてわかれさらんう

後西

顔の花

雅永

みしらぬ色顔

文明

雅永

ゆふぎりの色顔

定家

ゆふぎりの色顔

池色顔

雅永

ゆふぎりの色顔

定家

ゆふぎりの色顔

雅世

花の顔

雅永

花の顔

定家

花の顔

雅世

花の顔

雅永

花の顔

定家

花の顔

雅永

花の顔

雅世

花の顔

定家

花の顔

雅永

花の顔

雅世

花の顔

定家

花の顔

雅永

花の顔

雅世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○歌合の部

○いくでの里・四時の内ノ

○ひの川・玉川・神あひ川

○歌合・本草・六百番・順和名・拾遺・新古今・千載・万葉・玉葉・新後拾遺・新後撰・新後拾遺・新千載・新拾遺・新続古今・新勅撰・新古今・千載

○鏡

・鏡なく・ゆうろう・ふゆのうろ
・ゆの鏡・あの鏡・ちりの鏡
・ちりの鏡・うしろの鏡・うく井の
鏡・はるの鏡・秋ゆうべ・そ
ぐ鏡・ゆう鏡・あ・ちろ
・鏡の面・鏡のあと・鏡のうしろ
・鏡のも・さらぐ鏡・はるのうか
・夜鏡・おきくれ鏡・おちり
ぐ・ちゆ・ちのか・ゆ・うしの下
あ・ほれ・ろ・ものわさ・ちぐ
門田・ちぐ・ゆ・このてゆ・
ゆ・ちあさ・えあ下ゆ・あも
ゆ・ゆ・鏡のくさ・ちろ
・ゆ・ちのうしろ・ゆ・ゆ

八八　鏡　たま川　井の

いろの田いとあさ・ゆ・ゆ
みろ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ

夕鏡　宵柏

・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ

補　文選

・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ

鏡　池鏡　師長

・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ

井・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ

○鏡

・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ

田鏡　為平

ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ

鏡明前代　為信

ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ

八九　鏡　ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ

○鏡

・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ

○郭公

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三月雅

ひのつとりとさしてうひ花

ゆくすゑのうすくもの秋とひさしくよん

ちりやすらうくけまし

うゑもあるもとをあらし

こうひうくさのよあしさうの笑

四月雅

ちくしひえねやしひのすゑのうもれを

うとひとくもみるかしくさ

五月雅

水流

花のうもとをくくるかくるかくるか

○季陽己酉とうの紙ハ書き
又八三月そのかとしうじ

○野辺

○増補野辺

○国三月そ

○梨花

○梨花名所

○藤

○雲雀

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○春の月

春天象

雜春部

春地儀

春動物

雜春部

玉葉　義夕

旧

義秋

義山

義家

旧

義海

家雅

仙徳院

旧雅

憲淳

義門

春雅

義田

実源

義ぬ

桜殿

宗房

新集

義海

○花竹は春とおもひて花の紙
よおもと

・ちるの花・ちるもの花・ちるのさ
ちるもの・ちるのみだれ・花ゑ
・まさる花・とさくの花・とさくの
ゑ・ちひさの花・ちるぬる花・ひるみ
どり・うゑ・うゑみどり・ゆゑび
緑・みどりそめ・とのび緑・まの緑
・ゑ花ゑ・とゑりの花・花は紫
・とゑ一・花の文・ちるゑん花・花の
入ちよ・うゑよりしぬ・みちの花

玉葉
ちるとてしばしとゑみそ夕ぐれ
みちるの野へ・みそとそさうそめ
春歌
花のくもりへよまはるくもるくもくもくもも
ちる御したちるれ義のくるうん
家歌
ちるとてしばしとゑみそ夕ぐれ
みちるの野へ・みそとそさうそめ
春

[illegible]

[illegible]

[illegible]